

# 第26回徳島市 コミュニティまつり模様



昭和コミュニティ協議会会長 松岡 勤

## コミュニティ だより

徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地

〒770-8571  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511



開会式

晴天に恵まれた昨年十一月十二日、第二十六回徳島市コミュニティまつりが昭和コミュニティセンターにおいて賑々しく開催されました。昨年度は「わくわくコミュニティフェスタ」として、アステイとくしまでの大々的なイベントとなり、徳島市コミュニティ連絡協議会独自のブロック担当の手作りコミュニティまつりとしては、二年ぶりとなりました。担当は第一ブロックの五協議会で、年



模擬店

度当初より市民協働課を含めた実行委員会が何度も寄り合い、また、連絡を取り合い、着々と準備が進められていきました。胃の痛くなるような心配をよそに、冒頭にも書いたように、朝から青空が広がり絶好のまつり日和となつて、早朝からテント張りや催し会場設営等が集まった大勢のスタッフも笑顔一杯でした。環和会のコーヒーや、ポツプコーンのコーナー、東富田の道案内係、内町担当のウォーキング、新町は菓子とネギ焼き販売、西富田の吹き矢とダーツ、体協の指導のもとカローリング、地元団体による生鮮野菜販売やうどん販売、消防放水体験から医療関



消防放水体験

係者による健康コーナーまで、多種多様なブースが各々賑わいを見せ、盛況を博しました。それと並行し、コミュニティセンター内では各地区選りすぐりの出演者による演芸大会で、大勢の観客の前で自慢の喉、舞い、踊り、ダンスや演奏等が繰り広げられ大きな拍手に包まれました。トリは四国大会で見事金賞を受賞された昭和小学校生のブラスパンドの演奏で、一段と盛り上がったのでした。最後の恒例のお楽しみ抽選会では、用意した抽選券が足りなくなるほど人が集まり、会場に入りきれない人が窓外から参加し、大盛況裏のうちに第二十六回徳島市コミュニティまつりは終了することが



昭和小学校生のブラスパンド演奏

できました。

この成功は市民協働課やブロックの担当者はもちろんのこと、地区のコミュニティ関係の大勢の人たちが、屋外での駐車場や会場整理、進行等にスタッフとして献身的に協力してくれた賜であり、こうした共助や市内各地域の共援がコミュニティ事業の根幹を成すものと改めて確信したまつりでもありました。皆さまありがとうございました。



# 開館十周年を迎えて

住吉・城東地区町づくり協議会

会長 浜田 耕市

昨年十月一日、住吉・城東  
コミュニティセンターは開館十  
周年を迎えることができ、十一  
月十九日には記念式典の開催、

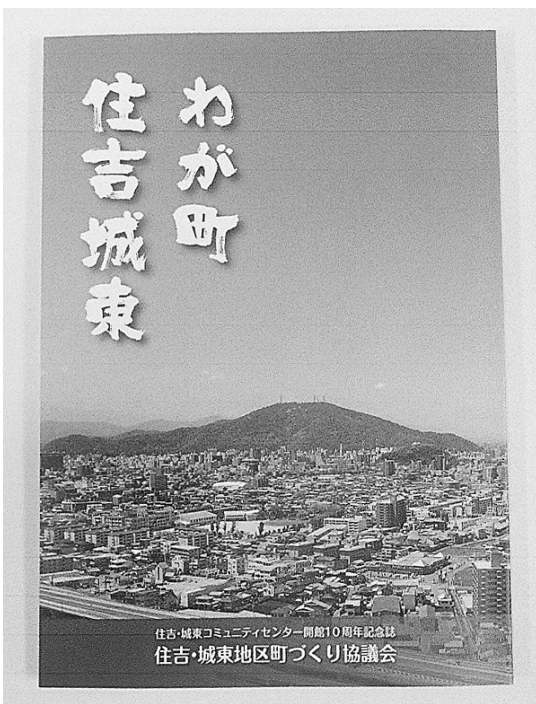
それに合わせて十周年記念誌  
を発行することができました。  
平成十一年住吉・城東地区  
町づくり協議会の初代会長に



開館 10 周年記念式典

岡本實氏が就任し、建設、開館に向けての本格的な活動が始まり、地域の皆さんの熱い思いを受けて会長始め役員の皆様が熱意をもって活動され、地域の活動・防災の拠点となるコミセンが平成十九年十月一日無事に完成いたしました。

開館して十年間を振り返ってみますと、徳島市で一番新しいコミセンとして先輩地区のコミセンに追い付け追いつけと取り組み、第二代会長芝正裕氏を中心に地域の特性を生かしたまちづくりに取り組み、もうと役員や地域の人と企画・実行してまいりました。大岡川べりにさくらの木を植樹育成し、今ではそのさくらの木も立派に育ち、春には地



「わが町住吉城東」

域の皆さんとお花見の会を開催しております。本年はその桜の木を現在の倍にしようと考えております。希少な生物が数多く生息している吉野川の住吉干潟、この干潟を守るべく清掃活動や観察・勉強の場として地域に根付くように地道な活動、また、昭和三十年代の住吉地区の文化、住吉音頭の復活に取り組み、曲の復元、歌や踊りの制作を地区内に在住する皆さんにそれぞれ担っていただきました。今では小学校の運動会で全校生徒・園児とともに踊っております。さらに、子どもたちに、徳島の伝統芸能阿波踊りを継承してもらおうと「住城子ども連」を発足させて八年

になり、地域のイベントやお祝いの場には欠かせないものとなっております。

開館十周年を記念して作成いたしました記念誌「わが町住吉城東」は町づくり協議会・公民館・児童館や各種団体の活動だけではなく、地域の歴史や文化について多く掲載してあります。地域の皆さんに自分たちの住んでいる住吉城東地区のことをもう一度再確認してもらい、次の世代の皆さんに今後をまちづくりのために役立ててもらいたいと作成いたしました。今後もコミュニティセンターを起点として地域が発展していくように、役員全員で考え、努力していこうと考えております。





津田コミセン屋上

去る十一月二十五日、好天のもと幼児からお年寄りまでの九十名余りが参加し「第六回津田の歴史・史跡めぐり」が開催されました。この催しは、親・子・孫の三世代が、生まれ育った津田地区の歴史を学びながら交流を図り、ひいては町の活性化につなげることを目的として、毎年行われています。



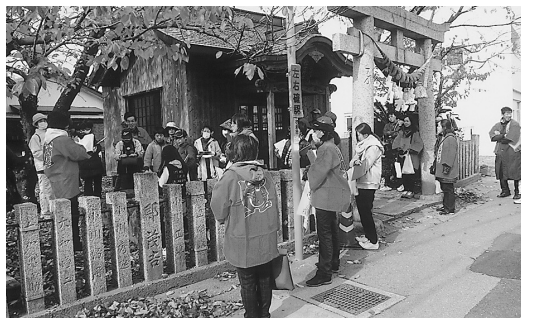
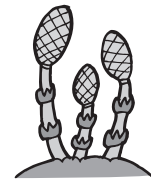
入船地藏尊

まず初めに、津田コミセンの屋上に登りました。ここは津波発生時の緊急避難所になっており、約三百七十名の人たちが避難できることを学びました。  
その後の史跡めぐりでは、①お旅所―秋祭りの際、津田八幡神社のご神体が、お宮を離れて渡御（お出まし）する場所のことです。祭りの見どころは、獅子舞・悪霊払いの

天狗・御神輿・だんじり・屋台（サツセ）が練りながら進行する勇ましい姿でした。  
②入船地藏尊―言い伝えによると、津田には大きな海運業の船団が三つあり、その一つである八喜屋（島田喜平）の船団が流れていた仏像を持ち帰り、お祀りをしたのが始まりであるといわれています。たくさんさんの船が無事に母港に帰るようお祀りしたのでしよう。  
③お亀神社―津田から四キロメートルぐらい沖に、お亀と呼ばれる磯がありました。室町時代の大地震で陥没したため、今は灯台が建てられています。そのお亀磯の神様をお祀りしたのがお亀神社といわれています。

④三景楼跡―三景楼という有名な旅館がありました。この宿からの眺めは素晴らしく、阿波・淡路・紀州の三国が見渡せたことからこう名付けられたといわれています。ここは貸席・湯屋・宿屋を一括営業しており、一流の料亭でもあったそうです。  
⑤多平地蔵―地域の言い伝えでは、廻船問屋の湊多平（齋津村村長）の幼子二人が立て続けに亡くなったので、供養のために建立したといわれています。今では、子どもの病気や厄除けによいとされています。  
⑥えびす神社―津田のえびす神社は、通町のえびす神社より古く一八六二（文久二）年に建立されました。この頃の津田は、徳島藩最大の港として賑わっていました。漁業・海運業の基地として栄え、海上安全・豊漁の神様として建立されたものです。周辺には商店が建ち並び、料亭や芝居小屋があり、非常に賑わっていたそうです。  
終了後行ったアンケートでは、このイベントの満足度は約八十%の方が「満足」「やや満足」、来年度も参加した

いかという問いには、約八十八%の方が「参加したい」という回答をいただきました。昨年で六回目を迎え、コースも二巡目に入りました。各史跡での説明も地域役員が交代で担当するため、説明者自身も事前の学習が必要となり、町の歴史を学ぶよい機会となっています。  
地域の恒例の行事として定着した「津田の歴史・史跡めぐり」ですが、今後も三世代の交流を深めつつ、町の活性化につなげていきたいと考えております。



えびす神社

津田コミュニティ協議会  
事務局 古金 芳朗  
第六回津田の歴史・史跡めぐりに参加して

# 国府地区自主防災連合会の結成と活動

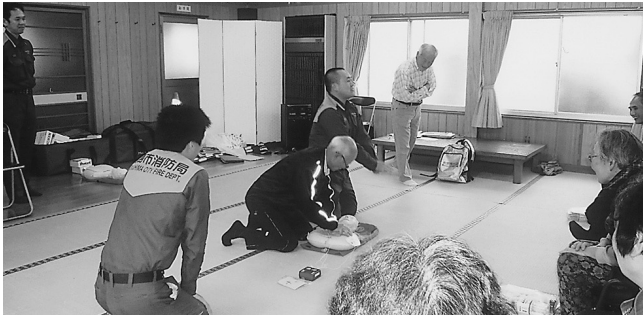
国府地区自主防災連合会

会長 戸井田龍行

**災害の発生と自助・共助**

巨大地震による災害発生時には、道路・水道・電気・ガス・通信といったライフラインが途絶することにより、救援部隊の被災地到着や組織的救援活動に時間を要することになります。

大災害発生時に、地域防災を担う主体は住民自身であることから、「自分の命は自分で守る、自分たちの町は自分たちで守る」という「自助と共助」に基づいた地域防災力が求められることになりました。



人工呼吸

自主防災連合会の結成と活動

国府地区自主防災連合会は、国府小学校区の二十五自主防災会により平成二十六年七月に結成されました。

連合会は、地域の住民が主体となつて避難誘導・救出救助・避難所運営などを行うという地域防災力の向上を目指して、研修会・避難訓練・防災関連施設の視察などを行っています。

連合会が発足して四年目となる今年度は、県住宅課職員による研修会を一回、NPO



ロープワーク研修

法人阿波グローカルネット講師による研修会を二回、徳島市西消防署職員による研修会を三回開催しました。

①県住宅課職員による研修会

大地震による木造住宅の倒壊対策として県が実施している「耐震出前講座」の一環として、家屋耐震診断と耐震改修補助制度講座を開催し、熊本地震の被害状況と県木造住宅耐震化の現状と耐震改修補助制度について研修しました。

②阿波グローカルネット講師による研修会

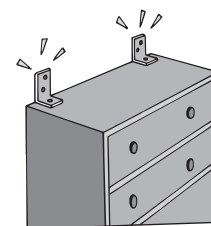
家具転倒防止対策講座を開催し、大地震による家具の転倒・落下・移動による被害を防ぐための安全な置き方と固定方法やガラス飛散防止フィルムへの貼り方について研修しました。

③西消防署職員による研修会

心肺蘇生法とロープワーク講座を開催し、地震や事故による傷病者に対する人工呼吸

少子高齢化が経済面や産業面及び地域自治において大きな社会問題となつてまいりました。限界集落や崩壊集落が各地で起こり、地域コミュニティ事業への参加者を募つても住民の価値観の多様化や高齢化に伴い、人材不足や地域防災根幹である消防団員のなり手不足など地域力低下がコ

とAEDの使用と日常生活においても役立つロープの結び方について研修しました。(国府コミュニティ協議会)



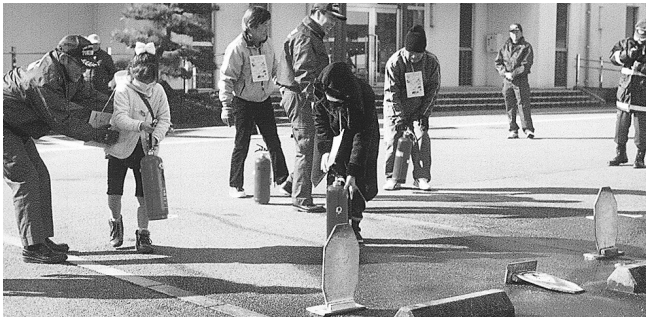
## 防災避難訓練の重要性を知ろう!

多家長中央コミュニティ協議会  
会長 開 寛

コミュニティ事業の足かせになるのではと今後のことが心配です。

地域力の低下のみならず、地域の産業衰退や第一次産業である農林業に従事する後継者不足も大きな課題です。

このようないっぱいある課題の是正に向けて、新たな地域自治協働システムの構



昨年の防災訓練の様子

築を目指して検討をはじめますが、当地域では課題は課題として受け入れ、現況の中で取り組んでいきたいと考えています。  
必ず起きるといわれている南海地震を想定し、県内各地で津波に対応した避難訓練が実施され、どの地域とも参加者も多く成功でしたとの報道をよく耳にします。しかし、私たちの地域では「災害サバイバル」と命名し、防災訓練を毎年実施しておりますが、住民の関心度が今ひとつ足りないような気がします。参加

# 加茂地区全町戦没者慰霊祭について

加茂地区町内会連合会 会長 吉田 文明

しなかつた住民に聞きますと、ここには津波も来ないし心配ないとの意見でした。  
この地域では津波は来ないかもしれませんが、急傾斜地や地滑り地が多く、俗に言われる山津波被害が考えられます。そのため訓練内容は、倒木整理やロープワーク、炊き出し訓練が中心になっていす。もつと住民にPRを行い、

加茂地区町内会連合会の主たる行事として、加茂地区全町戦没者慰霊祭があります。  
いま、戦没者慰霊祭を行う意義を考えてみたいと思います。  
戦前の日本は徴兵制度があり、成人男子は兵役の義務

訓練の重要性を高めていきたいと思います。  
がありました。従って、召集令状一通で軍役につかねばならなかつたので、当然、家を、親を、妻子を残して国家のために一身を捧げ、祖国の安泰を念じつつ、勇戦奮闘の末、戦死されたのであります。  
一方、思いをご遺族に致しますとき、最愛の家の柱の肉親を国家の犠牲とされながら、長い間、厳しい茨の道を歩んでこられました。その心情を思い出すとき、同情を禁じ得ないものがあります。  
このような観点から、この慰霊祭は戦没者遺族の処遇改善、靖国神社の国家護持を活動の目標にして、昭和二十六年四月に加茂地区遺族会が結成され、地区内の各種団体



住民協賛のもと、毎年秋に千松小学校体育館において、各関係機関の来賓、遺族等多数出席のもと、仏式により厳粛に執行されました。  
その後、慰霊祭は戦後三十二年を経過した昭和五十二年からは、三年ごとに行うこととし、執行場所も千松小学校体育館から加茂公民館で実施することといたしました。  
なお、平成二年二月一日時点の戦没者の霊標は二百二十九柱、遺族は二百十名でありました。  
また、加茂地区内の寺院四カ寺(薬師寺・真観寺・幸福寺・妙福寺)においても、輪番で三年ごとの春秋の彼岸に、戦没者の位牌を本堂に安置、荘

厳し、遺族は随時この寺に赴いて焼香慰霊することとなりました。  
昨年、十二月二日の慰霊祭は、ご遺族のご協力のもと実施いたしました。戦後七十二年が経過した現在におきましては、遺族会会員九十軒(会員数百二名)、戦没者の配偶者はお一人様がご健在であります。  
このような実情を勘案し、加茂地区遺族会の関係者と相談の結果、昨年の慰霊祭をもつて終わらせていただくことになりました。遺族会の皆さま、ご理解、ご了承を賜りますようお願いいたします。  
(加茂コミュニティ協議会)

# 上八万地域の 向上を目指して

## 上八万まちづくり協議会

### 会長 阿部 増江

時は流れ、平成二十七年に南環状道路が開通し、今ではずいっと前から通っていたかのように便利になりました。

上八万まちづくり協議会でも昨年から今年にかけて、いろいろなことが出来上がっていております。

その一つとして平成二十九年六月に上八万音頭が出来上がりました。これは、八万出身の椿欣也さんをお願いして作っていただいたものです。椿さんには、文化祭、敬老会等上八万地域づくりに大変貢献していただいております。



ミニギャラリー

上八万音頭のお披露目会には、他の地区の皆さんもたくさん来てくださり、大盛況でした。その様子は、四国放送フオーカス徳島やゴジカルでも取り上げられ、テレビを見たら県内の皆さんから反響がありました。これからも、この上八万音頭を広めていきたいと思っております。二つ目は、ミ

ニギャラリーです。文化祭ではいろんな作品を展示しています。素敵な作品が多いので、文化祭だけでなく、コミセンにミニギャラリーを作り、常時展示するようにしました。いろいろな作品を二カ月ごとに変えて展示しています。作品を発表する人も、見てくださ



敬老会での上八万音頭お披露目

る人も、楽しんでくださっています。ロビーが明るくなり、賑わっています。三つ目として、また新しいことに挑戦です。上八万地区は、今回徳島市の「新たな地域自治協働システム構築に向けたモデル地区の募集」に手を上げさせていただいて、自主運行バスに取り組んでおります。そのためのアンケートを地域の皆さんのご協力を得て、全世帯対象に、現在実施中です。モデル地区の事業の一つとして、今期はコミセンカフェ

を作ろうとも考えております。また、自主防災活動も楽しく取り組み、防災意識を深めています。公民館、社会福祉協議会、町内会連合会を始め、各種団体の皆さまと連携を取りながら事業を進めて、時代の流れに沿ったよりよい町づくりを目指していききたいと思っております。上八万まちづくり協議会は、これからも積極的に活動し、町の活性化の一助になれば幸いです。

## 編集後記

東京五輪の藍色の市松模様によって、阿波の藍染めが知られるようになりました。江戸時代、吉野川流域は藍を大量に産し、徳島の藍商人によって集められ、津田の廻船問屋によって全国に販売されていきました。津田港には多くの廻船問屋や三景楼のような旅館が栄えていました。

現代での徳島のコミュニティセンターの活躍は他県に先駆けるものです。昭和地区のコミュニティまつりでの多種多様な活動はそのことを物語っております。

後から出発した住吉・城東地区も追い付け追い越せの気概をもって取り組んできました。上八万地区では地域の向上を目指す三つの活動の紹介がありました。加茂地区では永年にわたり開催してきた戦没者慰霊祭の説明がありました。心すべきことです。

今は地震・津波等の防災対策が喫緊の課題で、国府地区の自主防災連合会の結成も他の範となるでしょう。多々良中央の意見も考えたいです。

(佐藤義忠 記)